

備前市男女共同参画推進委員便り

(市民協働課TEL0869-64-1823)

『今 想うこと』

男女共同参画推進委員

平川 満

団塊世代に生まれ、備前の地で健康に気をつけながら大過無く過ごし、人生道中の大きな区切りである子供たちも巣立っていき、そして第2の新婚時代であり老老介護も必要無く夫婦楽しく余生を折り返しています。過ごしてきた人生途中の社会情勢は、戦後の驚異的な高度成長で、国民一億総中流時代、バブルの崩壊そして経済が円熟した現在に至り、大きく時は変化しながら流れて、贅沢をしなければ衣食住に困らない時代になっていると思います。

備前市においても、男女がそれぞれの個性と能力を十分発揮することができる社会づくりを目指しております。具体的には依然と残っている固定的な性別役割分担意識や慣行などが無くなるよう、いろいろな方策で啓発しており、少しでも支援できればと関連がある推進委員の立場で支援しています。

市としての大きな目標は

- ① 個性と能力を認め合うまちづくり
- ② 人権が尊重されるまちづくり
- ③ 誰もがいきいきと暮らせるまちづくり

この3つの目標を掲げ、啓発推進を行っています。



中でも、最近啓発と実現に向け力を入れているのが、“ワーク・ライフ・バランス”であり、仕事、家庭や地域生活において、バランスよく豊かに生きていける社会を目指しています。このため、育児や介護に対し、行政は公的支援を今まで以上に行っています。各家庭においては、男女がお互いにそれぞれの人権を尊重し、家事、育児、介護などの課題と問題を解消していくことで、生活が充実し、一層仕事もはかどり、全てがうまく進んでいく相乗効果を期待しています。

日頃の家庭での役割分担として、‘家庭ごみを出すのは夫の役目’という意識がかなりポピュラーなことになっているようです。‘アイロン掛けなども、僕がする’という育メン家庭が増えているようです。私も、洗濯干しですが、若いときには頼まれたときでないとやっていませんでした。というのは、場所的にも、人通りがあると干している状況が丸見えで、どうも人の目が気になるので極力遠慮していました。最近は、流れも変化してきたのか、近所でもよく伸び伸びと干している光景に出会います。同様に、自分自身も抵抗感がなくやっており、特にカッターシャツなどは乾いた後のアイロン掛けの手間を考えて、干すとき裏表をパンパンと叩いて端をよく伸ばすよう心がけています。

これからも、まずは家庭でお互いに、思いやりの気持ちを持ち‘誰もがいきいきと暮らせるまちづくり’を目指しましょう。

